

2022 年度事業報告

(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)

東海市民社会ネットワーク

2022 年 11 月 21 日、野村典博共同代表 (NPO 法人ぎふNPO センター理事長) が急逝されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

1 G7 市民社会コアリション 2023 (以下「コアリション」という) に連動した事業

2023 年 5 月に広島で開催された G7 サミット及び関連事業に対応するため、2022 年 5 月 10 日に設立された「G7 市民社会コアリション 2023」に参加し、幹事間の情報共有を行うとともに、以下の活動を幹事が行った。

(1) コアリション・Civil7 関係

- ・ 7 月 8 日 コアリション設立記念フォーラムにオンライン参加
- ・ 11 月 24 日 ドイツ C7 から日本 C7 への公式引き継ぎ式への参加
「広島の市民社会、閣僚会合開催地からの活動報告 (オンライン)」のセッションにおいて、特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima、関西 NGO 協議会、東海市民社会ネットワークが登壇し、東海市民社会ネットワークから新海幹事が 2016 年の「市民の伊勢志摩サミット」について報告をした。さらには NGO スペース設置に関わった。
- ・ 12 月 23 日 外務審議官への要望書提出 (外務省)
佐久間幹事がチベット友の会として要望書を送付した。
- ・ 1 月 24 日 日本 C7 キックオフへの参加 (Zoom)
C7 および各ワーキンググループの概要と、今後のスケジュールについての説明
- ・ 1 月 31 日 C7 「しなやかで開かれた社会」ワーキンググループへの参加 (Zoom)
- ・ 3 月 5 日 C7 「しなやかで開かれた社会」ワーキンググループ 「地域から世界へ」サブワーキンググループへの参加 (Zoom)
日本語にてローカルなテーマを課題抽出を行い、佐久間幹事から市民の政治アクセスへの保証やこどもの権利について、山田ロサリオ幹事から外国人問題に対する言及などを行った。
- ・ 3 月 20 日 ODA 政策協議会 (JICA 中部) への参加
JANIC 堀内氏のサミット関連の議題に関して、大臣会合での企画も紹介される。
東海地区でも市民の交通サミットの企画がある旨を佐久間幹事が発言。
- ・ 1 月～ G7 交通大臣会合 (2023 年 6 月 16～18 日 志摩市) に合わせた「市民の交通サミット」の検討
みえ市民活動ボランティアセンターが主催する事業に、東海市民社会ネットワークが共催することを決定し、新海幹事を中心に取り組んだ。

(2) みんなの市民サミット関係

① みんなの市民サミット企画ミーティングに参加

みんなの市民サミット実行委員会への参加は行わなかったが、「市民の伊勢志摩サミット」の経験等を共有するために、企画ミーティングに複数の幹事が参加した。

1月27日(金) 「G7広島市民サミット(仮称)」第1回企画ミーティング

2月24日(金) 広島市民サミット実行委員会(第2回)(Zoom)

3月1日(金) 広島市民サミット広報委員会(Zoom)

3月24日(金) 広島市民サミット実行委員会(第3回)(Zoom)

② みんなの市民サミット分科会「『ラリー』と『ロビイング』のあいだで」の共催を決定 市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCI)とあどぼの学校運営委員会 が主催する「みんなの市民サミット2023」の分科会の共催を決定した。

③ グローバル市民講座「核兵器のない 誰も取り残さない世界を」の実施

- ・日時：2023年2月23日(木・祝) 13:30~16:00
- ・場所：みえ県民交流センター交流スペースA
- ・ゲスト：渡部朋子さん(特定非営利活動法人ANT-Hiroshima)
松原裕樹さん(ひろしまNPOセンター/G7市民社会コアリション2023)
- ・参加者：27名(会場23名/オンライン4名)
- ・共催：東海市民社会ネットワーク 生活協同組合コープみえ
- ・主催：みえ市民活動ボランティアセンター

2023年5月に開催されるG7広島サミットに向けて、広島、全国のNPO,NGOが「核兵器廃絶」に向けた動きを進めていることを受け、三重県においても「平和」「核兵器廃絶」をテーマに、広島、全国のNPO,NGOとつながり、東海地域のNPO,NGO、市民が共に学びあう場をつくった。4月に広島で行われる「みんなの市民サミット」に向けて、三重、岐阜、愛知からの「核兵器廃絶に向けてのメッセージ」を届ける取組みとして「アリさんメッセージ」を実施した。



2 SDGsに関連する学習会・研究会

(1) 2022年総会記念イベント「市民の立場から平和を語ろう」の実施

日時 6月4日(土) 14:00~16:30
会場 岐阜商工会議所 議員総会室
講演 ANT—Hiroshima 渡部 朋子理事長(オンライン)

ロシアがウクライナに侵攻し、多くの市民が日常を失う。そして世界的に戦争や核兵器の脅威が現実的となる中、唯一の被爆国である日本の市民としてどう考え、何をすべきかを語り合った。オンラインで基調講演をいただいた渡部さんにもタブレットを通じてテーブルトークに参加いただくなど、「市民と平和」を正面から真摯に考えるよい機会となった。

(2) 多文化共生パートナー育成講座(JICA中部、名古屋NGOセンターと共催)

日時 12月8日(日)・2月5日(日)・3月19日(日)の13:30~16:30

ユースを対象に、海外ルーツの人々と無関心層をつなぐ橋渡し役になってもらうことを目的とした。三回連続講座の一回目は金友子氏(立命館大学准教授)の講演で無意識の差別・偏見について理解し、体験型ワークショップにより気づきの機会とした。第二回では、海外ルーツのライフステージ(教育と就職、労働、老い)について現場からの報告と、課題分析ワークショップを行い、問題の構造を理解し、アクションにつながるヒントを得た。第三回では、海外ルーツと地域をつなぐ橋渡し役として、課題解決に向けたアクションを発表し、専門家や活動家から講評をいただいた。

最終的には22名が3回のコースを修了した。ルーツにかかわらず地域の福祉の課題に取り組む講評者の金順愛さんから「若い世代が一生懸命考えて発表している姿はとても素敵。日本社会が変わっていく希望を見せていただいた」とおっしゃっていたことが心に残った。

中島、八木、古澤、ロサリオ、佐久間各幹事と滝賛助会員が参加した。

3 関連事業への参加・協力

(1) 「きれいな水といのちを守る全国集会 in ぎふ」(2022年10月8・9日)

- ・主催 きれいな水といのちをまもる全国連絡会
- ・後援 東海市民社会ネットワーク

神田幹事、佐久間幹事、山田ロサリオ幹事が参加

コロナ禍で3年間延期された水に関して包括的に議論し、現場見学などを重ねる全国集会が対面で開催された。依然としてコロナ禍の不安が残る中、想定参加者の半分の約150名の参加に留まったが、初日は揖斐川流域の水や環境に関する様々な取り組みの共有が、2日目は分科会に分かれて「石鹼」「映画『水になった村』鑑賞」「水とSDGs」「岐阜県内最大のマンボ見学」が行われた。また、オプションとして徳山ダム見学もあり、全国各地から水や環境に関して活動する人々の交流・交歓の場となった。

4 東海市民社会ネットワークの事務局の検討

地球環境基金の絡みもあり、発足以来事務局は三重県(みえNPOネットワークセンター→市民社会研究所)が担ってきたが、次年度から3県の持ち回り制で行うことを決定した。2023年度は岐阜県が担う。